

「杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」を報告

9月25日に開催された杉並区議会総務財政委員会で、区は「杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」を報告しました。

戦略(案)には、「杉並区人口ビジョン」や区の実情を踏まえ、3つの基本目標とその実現に向けた平成27～31年度の取り組みを盛り込んでいます。

今後、区民等の意見を聴いたうえで、年内を目途に決定してまいります。

平成26年末、国は急速な少子高齢化の進展に対応するとともに、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法」および「まち・ひと・しごと創生総合戦略・長期ビジョン」を定めました。

近年、杉並区の人口は増加を続け、平成27年9月1日には552,287人と、区制施行以来最多となっています。しかし、人口増の主な要因は、地方を含む区外からの転入が転出を上回る社会増によるもので、日本の総人口が減少すれば、区もその影響を受けることは避けられません。

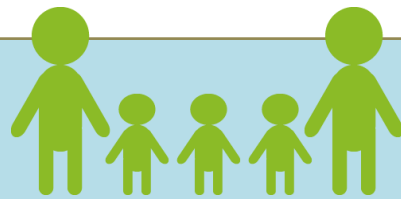
「まち・ひと・しごと創生(地方創生)」の取り組みは、現在人口が減少している地方の問題として、あるいは都市と地方の二項対立としてとらえる風潮があります。しかし、都市と地方はヒトやモノなど様々な面で密接に繋がっており、地方の繁栄なくして都市の繁栄もあり得ません。このことから、人口減少に歯止めをかけ、活力ある社会を維持していくという日本全体の問題に対し、都市と地方が連携し、共に取り組んでいくという姿勢が必要であると、区は考えています。

こうした認識のもと、区は「杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとしたものです。

総合戦略の期間は、27～31年度の5カ年で、下記の3つの基本目標で構成しています。

基本目標1

若い世代の結婚・出産・
子育ての希望をかなえる



区は、子育て支援策として、待機児童の解消や子育て応援券の配布などに取り組んできました。今後も、働きながら産み育てられる環境の整備に取り組めます。

【主な事業】

- ・結婚に向けた出会いの場の創設《新》
- ・多子世帯への子育て応援券の増額交付《拡》
- ・学童クラブの利用時間の延長《拡》
- ・多子世帯の保育料等の負担軽減の実施《拡》
- ・ファミリー向け住宅の供給促進の支援《新》

《新》…新規事業

《拡》…既存事業等の拡充事業

《実》…杉並区実行計画の事業

基本目標2

地方との連携により、
豊かな暮らしをつくる

区は、国内8つの交流自治体と総合戦略策定においても、連携協力を図っていくことを確認しています。地方には東京にはない豊かな自然や様々な特産品もあります。こうした地域資源を活かし、多様な体験や新たな住まい方の選択肢を提供するなど豊かな暮らしづくりを支援します。

【主な事業】

- ・交流自治体物産展・情報発信の充実《拡》
- ・交流自治体とっておき情報の発信《新》
- ・交流自治体体験・交流ツアーの開催《拡》
- ・「すぎなみ地域おこし協力隊」の創設、活動支援《新》
- ・交流自治体との連携による若者の出会いの場の創出支援《拡》
- ・ふるさと就労体験の実施《新》
- ・南伊豆町「お試し移住事業」への参加支援《新》
- ・「おぢやクラインガルテンふれあいの里」の区民の利用支援《新》
- ・南伊豆町との連携による特別養護老人ホームの整備《実》

基本目標3

来街者を増やし、
まちのにぎわいを創出する



区では、東京の夏の風物詩となっている高円寺阿波おどりや阿佐谷七夕まつりをはじめとした様々なイベントが開催されています。また、文化や歴史を感じられる特色ある施設もあります。こうした区内の観光資源の魅力を高め、効果的な情報発信力を強化することで、訪日外国人旅行者など来街者の増加を図ります。

【主な事業】

- ・荻外荘の復元・整備を中心とした観光エリアの整備《実》
- ・杉並芸術会館（座・高円寺）を拠点としたにぎわい創出《拡》
- ・アニメーションミュージアムの充実《拡》
- ・情報発信の体制強化《新》
- ・駅周辺トランスボックスラッピングの実施《新》
- ・交流自治体連携による台湾からの修学旅行等の誘致促進《拡》
- ・台湾との文化・芸術交流の実施《新》
- ・宿泊施設をはじめとする訪日外国人の観光基盤整備《新》